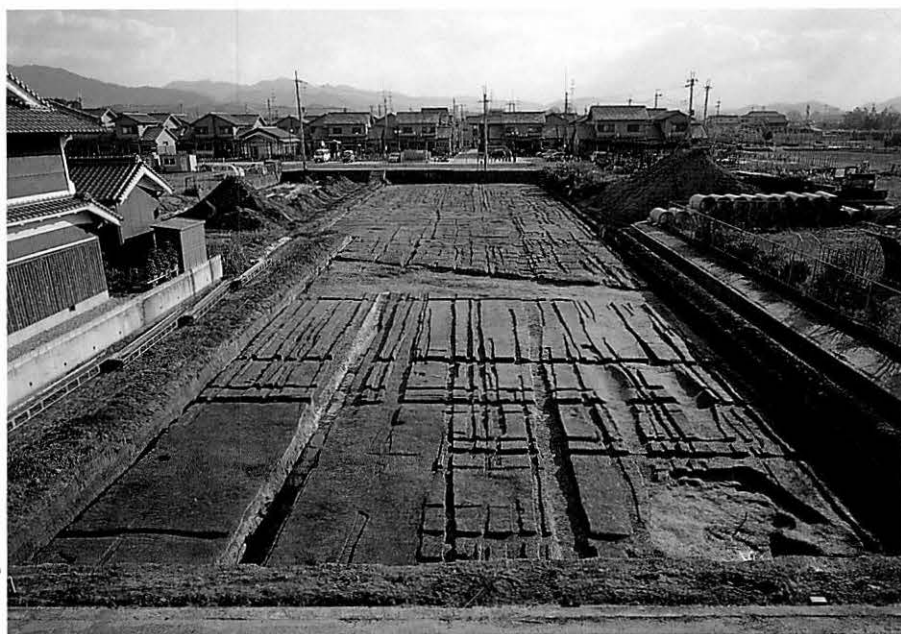


1996年度のおもな調査



水落遺跡の大規模建物

漏刻台（水時計）の南東約50mでみつかった飛鳥時代の四面庇付きの大規模な建物。建物の大きさは、南北が約14m、東西が18mで、柱掘形も大ぶりである。背後には、飛鳥川をはさんですぐに甘樫丘がせまる。東から。
本文40頁参照（撮影 井上直夫）



藤原宮跡の調査

宮内の西南隅に近い地区の発掘。宮以前に通っていた南北方向の道路を北から見たもの。道路の幅は約6.5mで両側溝をそなえる。側溝からは「評」の木簡が出土した。宮の造営にともない埋められ、調査地周辺は、広い空閑地とされた。
本文4頁参照（撮影 井上直夫）

吉備池廃寺の調査（航空写真）

吉備池は、香久山の北東、桜井市吉備にある農業用のため池。今回の発掘で巨大な金堂の基壇を確認し、飛鳥時代寺院の存在が明らかとなった。写真は北上空からの撮影で、左が調査中の金堂である。現存の土壇よりひとまわり大きく、金堂の黄色の基壇土が見える。金堂の右（西）に残るもう一つの土壇は、塔基壇の可能性が高い。本文85頁参照。





↑(上)吉備池廃寺金堂基壇

金堂は、掘込地業をともなう高い基壇をもつ。これは、基壇の北辺を東からみた写真である。基壇土が掘込地業の外側まで広がっている。平行して、礫を投棄した近世の溝がめぐるが、礫自体は、ほんらい、基壇にともなうものであろう。遠方に見えるのは塔と推定される西方土壇である。本文85頁参照（撮影 井上直夫）

↑吉備池廃寺金堂基壇の断面

金堂基壇の断面を西から見たところである。暗褐色砂質土のベースを1m近く掘り下げた掘込地業の状況がよくわかる。底面に多数の礫をおき、その上に厚さ5cm内外の版築を重ねて、高い基壇を構築している。掘込地業の底からの高さは、現状で2.5~2.7mある。本文85頁参照（撮影 井上直夫）



本薬師寺西塔

水田中に残る西塔土壇を南東からみた写真。心礎の南東、土壇の4分の1を発掘した。基壇上部は大きく削られ、基壇外装も抜き取られていたが、石組みによる雨落溝や犬走の一部をとどめる。土壇周囲には瓦を廃棄した土坑がある。本文24頁参照（撮影 井上直夫）



山田寺南面回廊

東からみた南面回廊。白っぽい礎石は花崗岩製で、蓮弁で飾った柱座をつくりだしたもの。礎石上に長く残るのは壁下の地覆材。ほかに回廊の建築部材として柱や頭貫、肘木や斗などの組物が点々とある。累々と残る瓦は、屋根に葺かれた状態をよくとどめているものや、反転して落下した状況を示すものがある。本文78頁参照（撮影 井上直夫）